大阪市教

2016年11月4日
VOL. 530

発行　大阪市学校園教職員組合
大阪市中央区法円坂1-1-35（大阪市教育会館内）
TEL 6910-8700　FAX 6910-7990

第25回 大阪市教 教研集会

憲法は国家権力を縛るためのルール

憲法を知り、事実を子どもに伝える

橋本智子弁護士

大阪市教25回教研集会が10月22日開かれ、「明日の自由を守る若手弁護士の会（あすわか）」の橋本智子さんが記念講演「いまこそ、立憲主義、憲法と平和、そして教育」を行い、社会科、低学年、学級経営、幼稚園、障害児教育、ウォーキング、同一労働同一賃金など7分科会で研究・交流を深めました。

橋本さんは、護憲、改憲、論憲、加憲、創憲、壊憲など様々な議論があるが、「憲法論議が現状を打破したいという雰囲気に流されつつある」状況を指摘し、「憲法自体をきちんと知る必要がある〝知憲〟」の重要性を話しました。憲法とは、「国家権力を縛るためのルール」で、憲法制定者である国民は憲法尊重擁護義務を課される対象ではなく、その対極とも言える「自民党憲法草案」第102条には「全て国民はこの憲法を尊重しなければならない」と記されており、これは国民の内心まで踏み込んで義務を課す、国家によって国民の人権侵害が簡単に行われてしまうことを意味すると指摘しました。

また、憲法12条の「公共の福祉」が「公益及び公の秩序」に書き換えられ、明らかに基本的人権を制約するものとなっている。緊急事態条項は、「災害対策で一番大切なのは現場で、内閣に権限を強化するのは逆行だ。自然災害やテロに対しても既に法律が整備されている」「衆議院が機能しなくても参議院の緊急集会で対応できる」と述べました。「教師が歴史的事実、社会的事実を子どもにきちんと伝えることが要だ」。参加者から、「憲法には愛がある。不断の努力によって平和を維持していかないといけない」との言葉が強く印象に残ったとの感想がよせられました。（以下、感想）

●橋本さんのわかりやすい憲法のはなしが聞けてよかった。子どもたちにわかりやすく憲法を教えるし引き出しが増えました。ありがとうございました。

●「あすわか」に希望をあたえていただきありがとうございました。私も一人の教員として、工夫して、子どもたちやまりの人たちに、憲法を守り、発展させていけるよう、頑張りたいと思います。

●分科会で有酸素運動となるウォーキングについて教えていただきました。また、自分の普段の歩き方をみていただき、正しい歩き方への修正方法を教えてもらうことができ今後も元気に仕事ができそうです。ずっと楽しい雰囲気で笑いの絶えない分科会でした。ありがとうございました。

●多様な取り組みの報告を聞いていると、こういった組合を通じた学びと刺激は大切だと再認識しました。わかりやすい憲法の話も、授業で憲法の話に触れるときの勇気を頂きました。

同一労働同一賃金について

体幹を鍛えるウォーキング

楽しく社会科を学ぼう

たんぽぽだより 11月

大阪市教教研が10月22日にありました。記念講演では、橋本智子さんに憲法を守る話や「自民党改憲草案」の話などをしていただきました。そこで学んだことは知憲（憲法を正しく知ること）が大切だということ、憲法は国民の義務を定めるためではなく、国民の権利を守るためにあるということです。イラストを使ってお話していただいたので、説明が青年にも分かりやすかったです。とても勉強になりました。

また、全体会では、青年による熊本震災でのボランティアの報告も行いました。今も震災のつめあとを残す熊本。そのかたわら、復興にむけ支え合う熊本の方々。ボランティア活動の報告を通して、今私たちにできることは何か、すべきことは何か、ということを改めて考える機会になりました。

私たちも青年同士が、手を取り合って支え合い、『仲間の輪』を広げていきましょう。

青年の組合加入続く

ゆいま～る、しゃべりば

沖縄で12月に行われる〝「全教の未来をひらくプロジェクト」ゆいま～る〟、全国から千人規模で青年が集まる大集会に、現在3人の青年が参加する予定です。沖縄について今まで3回の学習会をしました。基地のこと、高江のヘリパッドのこと、他にもたくさん沖縄の問題について学習をしました。次回は11月11日に行います。一緒に学びませんか？　9月の、全教「沖縄から憲法について学ぶ学習の夕べ」に参加し、全国の仲間と沖縄の問題について学んだ青年もいます。

大阪市教教研では、青年がオープニングや司会を担当しました。近畿ブロック青年学習交流集会は今年度大阪で開催。近畿の青年と交流したり、学習を深めたり充実した2日間になりました。大阪市教の青年が副実行委員長を務めたり、科会の司会を担当したりしました。

西大阪支部で10月28日しゃべり場学習会を開催。青年がたくさん参加し、先輩と一緒に音楽の授業づくりについて学びました。2月の青年フェスタに向けて頑張っています。夏休みの大教組のキャンプや熊本ボランティアに参加した青年もいます。

今年度は青年の組合加入が多く、仲間が増え嬉しい気持ちでいっぱいです。忙しい毎日で大変なこともありますが、元気いっぱい、つながりを大切に学びを深めて頑張りたいと思います。（青年部）

府民学習会

「できない子は受けるなってこと」

チャレンジテスト撤回運動強化

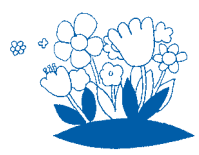
●ある学校は「2」が多くなり、ある学校は「4」が多く…中学1・2年のチャレンジテストの得点や中学3年生の…内申点が府立高校の合否を決定します。（府下小学校だより）

●体調が悪いのに…無理に受験することは勧めません。…不利になってしまうこともあります。（府下中学校2年学年だより）

●チャレンジテスト速報！平均得点は、1・2年生ともすべての教科において、大阪府を上回っていました。（平均点表を掲載、大阪市立中学校）

●「学校のランク付けになってしまうので、教育的でない。親子ともども点さえ取れればという誤った認識に導いてしまっている。」「『できない子は受けるなってこと？』の声が」（実施状況調査大阪市集計から）

維新府政が導入したチャレンジテストの問題点をつかみ、廃止・撤回への世論と運動を広げようと、子どもと教育・文化を守る大阪府民会議が10月10日府民学習会を開き177人が参加しました。教育現場、大阪の町が壊されていくことへの批判の声があがりました。



子どもを脅し、学校に混乱

安心ルール運用阻止

市教委は「学校安心ルール」を昨年11月に策定、本年4月に「低学年用」「中学生用」「高学年用」に改定し、保護者へ周知するよう各学校に通知しています。子どもを脅し、保護者に不信を広げ、学校に混乱を持ち込む「安心ルール」への批判の声が引き続き寄せられています。

●保護者に学校を監視させ通報させるようなやり方では不信感が深まり決して子どもたちにもいいようにはなりません。

●職場は超多忙です。話題にする時間のゆとりは全くない。今の状態では、もし実施されると学校によって対応が違ってくるのは目に見えている。一番理解できない点は、保護者に通報させる点です。学校が安全で児童・生徒が安心できる場になるには、より多くの教職員がいて、困った時は勿論、ゆきとどいた対応が日常的にできていることが最も必要です。大阪には人も足りなく、低賃金で、超多忙で、みんな傷ついています。

●保護者からの通報システムが運用されたら、さらに現場の混乱は必至です。何としても運用は阻止したいです。